

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



闇をまなざし、光にふれる。 児玉靖枝・西條茜・牡丹靖佳・吉岡千尋

Gazing into the Dark, Touching the Light Yasue Kodama, Akane Saijo, Yasuyoshi Botan, Chihiro Yoshioka



本展で紹介する4人のアーティスト、児玉靖枝、西條茜、牡丹靖佳、吉岡千尋による表現の基底には、存在の表裏をなす光と闇への意識、そして、そこに内包されるある種の「伝わらなさ」が横たわっています。

空に溶け入りそうな花の形や日に透ける葉の重なり、魅惑的な色彩と光沢を放つ器の肌、物語を予感させる色と形の連鎖。その背後に息づく、目に見えないもの、空虚な内側、全体に通じない欠片、記憶の空白…。目に映る〈光〉の世界の美しさを通して、その裏側、あるいは認識の働きに潜む〈闇〉の事象に目を凝らし、その輪郭をあぶり出そうとする彼らの作品は、不思議な透明感をまとい、見る者の感性を世界の深奥へと開いてゆきます。

人々が日常と生命の儚さを改めて知る一方、二極化する価値観や分かりやすさへの偏重を余儀なくされる今の世界で、光と闇の狭間にあって言語や意味に回収されることのない「伝わらなさ」を掬い取り、存在することの本質、光と闇の向こうから放たれる「もう一つの光」に触れようとする四者の試みにご注目ください。

[画像左より] 児玉靖枝《ambient light - flower》2000年 | 西條茜《melting point》2015年 | 牡丹靖佳《Seesaw》2020年 | 吉岡千尋《muqarnas 36》2020年 *すべて部分、撮影: 来田猛

【展覧会概要】

展覧会タイトル：闇をまなざし、光にふれる。 *Gazing into the Dark, Touching the Light*

出展作家：児玉靖枝、西條茜、牡丹靖佳、吉岡千尋

会 期：2021年 5月11日 [火] - 6月26日 [土] *休廊: 日・月

会 場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00-18:00 [土曜日-17:00] *新型コロナウイルスの感染拡大状況などにより、会期や開廊時間が変更される場合があります。

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

◆ 関連イベント：モーニングトーク（予約制）

午前中の爽やかな光と空気の中で、出展作家による対談と作品鑑賞をお楽しみください。

5月15日 [土] 10:00-10:50 西條茜 × 牡丹靖佳

11:00-11:50 児玉靖枝 × 吉岡千尋

*ご参加は5月14日(金)までに予約ください。お申込みはアートコートギャラリー (Email: info@artcourtgallery.com / Tel. 06-6354-5444) まで。

*同日、吉岡千尋作品集『mimesis』(2018年発行) オリジナルドローイング入り特装版(限定50部)を展示販売いたします。

作品集詳細はこちら ▶ https://www.artcourtgallery.com/publications/yc_mimesis/

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



闇をまなざし、光にふれる。 児玉靖枝・西條茜・牡丹靖佳・吉岡千尋

Gazing into the Dark, Touching the Light Yasue Kodama, Akane Saijo, Yasuyoshi Botan, Chihiro Yoshioka

◆ 西條茜 Akane Saijo



《sunya》釉薬 | 40x35x35cm | 2014年 撮影: 来田猛



《melting point》釉薬、樹脂 | 5x50x50cm | 2015年 撮影: 来田猛 *参考作品

陶芸を主なメディアとする西條茜は、確かな形を有し、目でその光沢や色味を愛で、手で質感を確かめることができる、どこまでも実体（リアル）でありながら、同時に、空虚な内部空間を包み隠す「表面」としてのやきものにつきまとう虚構性に焦点をあてます。さらに、そこに私的な物語や他者の歴史など、目に見えない要素を重ねることで、器物という空間的存在に時間軸を組み込んだ独自の世界観を提示してきました。本展では、2012年より取り組んできた、粘土による素地＝躯体を取り除き、器の「外皮」である釉層のみで成り立つ造形シリーズの深化を試みます。内側に隠す空虚を半ば露わにしながら、実と虚、空間と時間、光と闇を透かし込む両義的な存在としてのやきものは、私たちの知覚や認識を拡張してゆきます。

1989 兵庫県生まれ
2012 京都市立芸術大学美術学部工芸科陶磁器専攻卒業
2013 ロイヤルカレッジオブアート(ロンドン)交換留学
2014 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻陶磁器分野修了
2020 京都市芸術文化特別奨励者

主な個展

2021 胎内茶会(京都市営地下鉄醍醐車庫、京都)
2019 タブーの室礼(ワコールスタディホール、京都)
2018 Grotta/胎内の孤独(同時代ギャラリー、京都)
2017 Polly(アトスペース虹、京都) ['15]
2016 ほ伏する山々(Gallery shop collage同時代ギャラリー、京都)
2015 Hollow Tool Box(ギャラリーみやがわ、京都)

主なグループ展

2021 KYOTO ART LOUNGE EXHIBITION 表裏のバイパス(藤井大丸 ブラックストレージ、京都)
*アートユニットTOBOEとして参加
森夕香、西條茜 二人展: 流転するあいづち(LOKO Gallery、東京)
2020 以美為用展(陶芸)〜明日へのとびらII〜(高島屋、京都)
2019 越境する工芸(金沢21世紀美術館)
Kyoto Art for Tomorrow-京都府新鋭選抜展2019(京都文化博物館) ['17]
2018 ニューミュージケーション-変・進・深化(京都芸術センター)
Nature ∩ Art -人間と自然の営みとの境界で(JARFO 京・文博、京都)
2017 Ascending Art Annual Vol.1 すがたかたち-「らしさ」とわたしの想像力(スパイラル、東京)
Test Case XI(European Ceramic Workcenter、オランダ)
rithome 西條茜+嶋春香(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都)
2016 六甲ミーツアート芸術散歩2016(六甲山牧場、兵庫)〈彫刻の森美術館賞〉
2015 Sign of Happiness(Antenna Media、京都)
2014 Yumiko Ono Akane Saijo Exhibition(Sakura Gallery、東京)
月のアート(ギャラリー月の庭、京都)〈審査員優秀賞〉
2013 DOMO(Hackney gallery、ロンドン)
2011 京都市立芸術大学作品展〈富本賞〉

レジデンス

2019 Le Maupas A.I.R.(フランス)
2017 European Ceramic Work Centre (オランダ)

主なコレクション・設置場所 京都銀行／新建築社オフィス



《宙の手#3》釉薬、錫 | 8x11x3cm | 2020年
撮影: 来田猛 *参考作品



《cape, cave》陶土、釉薬 | 120x60x140cm | 2014年
撮影: 大島拓也 *参考作品

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪府北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL: 06-6354-5444 FAX: 06-6354-5449 E-mail: info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



闇をまなざし、光にふれる。 児玉靖枝・西條茜・牡丹靖佳・吉岡千尋

Gazing into the Dark, Touching the Light Yasue Kodama, Akane Saijo, Yasuyoshi Botan, Chihiro Yoshioka

◆ 牡丹靖佳 Yasuyoshi Botan



《Seesaw》油彩、キャンバス|61x91cm|2020年



《Tree owl》油彩、キャンバス|61x91cm|2020年

牡丹靖佳は、日常の風景や事物を、色や形、筆触といった絵画言語に置き換え、それらの間に結ばれる関係と対話しながらイメージを連鎖させることで、「何か」の予兆と余韻に満ちた絵画世界を織り上げます。近年は、色そのものの自律的な働きに着目し、闇の中で鋭敏になる触覚や視線の動きに呼応して浮かび上がる流動的な色彩の世界を反復や対称というルールのもとに再構成する〈carpet〉シリーズ（《Seesaw》《Tree owl》など）、あるいは、絵具の滲みや垂れなどの現象と描かれるイメージとを等価に扱うことで、モチーフを「絵画」に翻訳する前の淡い状態のまま画面に定着させる〈a piece of story〉シリーズ（《Annunciation》など）を展開し、瞼の裏に映る仄かな光を追うように、描く行為を重ねています。

1971 大阪府生まれ
1997 School of Visual Arts 卒業、ニューヨーク
2016 第4回セゾンアートプログラム 美術家助成受賞
2007 財団法人野村国際文化財団 芸術文化助成受賞
2012 ポロック・クラズナー財団 助成受賞

主な個展

2018 1冊の本から見えるオランダの世界〜色・デザイン・建築〜(八戸ブックセンターギャラリー、青森)
2017 Thaw(トーキョーワンダーサイト アートカフェ 24/7 coffee & roaster、東京)
2016 gone before flower(アートコートギャラリー、大阪)
2014 parade(Mizuho Oshiro ギャラリー、鹿児島)
2013 color palette(Deshima Air、アムステルダム)
誰も知らない図書館(MA2 Gallery、東京)「10」
2012 片方もの、もしくは盗人のコレクション(アートコートギャラリー、大阪)
2011 馬鹿レチェと恐れミエドの会話(アートコートギャラリー、大阪)
2008 into the forest(hpgrp GALLERY TOKYO、東京)
2006 雲居の余所(大阪府現代美術センター、大阪)「98」
むこう側への話(TAPサテライトギャラリー、茨城)
2005 Bloomfield(トーキョーワンダーサイト渋谷、東京)
2004 見立て、たくらみ、壺中の術中(INAXギャラリー2、東京)「01」
2003 ヒトとモノ(トーキョーワンダーサイト渋谷、東京)
第4回美術家助成プログラム受賞記念展(セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京)
2002 トーキョーワンダーウォール 2002(東京都庁舎) *トーキョーワンダーウォール賞受賞者として

主なグループ展

2019 Small Infinity(MA2 gallery、東京)
2018 15年(アートコートギャラリー、大阪)
2017 heART〜春和景明〜(インターコンチネンタルホテル大阪 20Fロビー)
コレクション1 イメージの庭(伊丹市立美術館、兵庫)
2016 WEWANTOSEE 日本・ベルギー国際交流美術展 in 金沢(金沢21世紀美術館)
2015 INCIDENTS 2015(八戸酒造旧酒蔵、青森)
2013 The 24th Biennial of illustrations Bratislava<第24回ブラティスラヴァ世界絵本原画展>
(ブラティスラヴァ「14・15日本国内5ヶ所を巡回」)
2011 Art in an Office—印象派・近代日本画から現代絵画まで(豊田市美術館、愛知)
2010 Tokyo Wonder Wall 2000-2009(東京都現代美術館)
小池一馬・牡丹靖佳「A silent moment at Veronica island」(hpgrp GALLERY TOKYO、東京)
2009 林勇気・牡丹靖佳・山野千里「migratory—世界に迷い込む—」(アートコートギャラリー、大阪)
2006 モンブラン国際文化賞授賞式(東京)
2005 iimawashi: Contemporary Art from Japan(Edinburgh International Festival Fringe, Merz Gallery、エジンバラ、スコットランド)
2003 スキマ・ザ・バスハウス(SCAI ザ・バスハウス、東京/コマンドN、東京)
2002 第5回岡本太郎記念現代美術大賞展(川崎市岡本太郎美術館、神奈川)

レジデンス

2015 RUD air(スウェーデン)
2013 Deshima AIR(オランダ)
2008 Scottish Sculpture Workshop(スコットランド)
2007 Foundation B.a.d(オランダ)

主なコレクション・設置場所

トヨタアートコレクション／大阪総合保育大学



《Annunciation》
油彩、色鉛筆、キャンバス
65.5x60.5cm|2021年

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

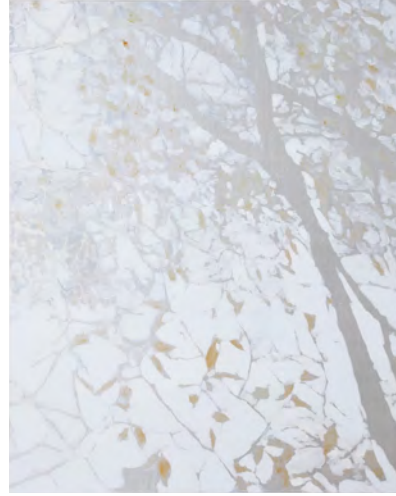
© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -



闇をまなざし、光にふれる。 児玉靖枝・西條茜・牡丹靖佳・吉岡千尋

Gazing into the Dark, Touching the Light Yasue Kodama, Akane Saijo, Yasuyoshi Botan, Chihiro Yoshioka

◆ 吉岡千尋 Chihiro Yoshioka



[左] 《muqarnas 26》

油彩、蜜蝋、金属粉、テンペラ、白亜地、キャンバス
27.5x41.3cm | 2020年

[右] 《muqarnas 36》

油彩、蜜蝋、金属粉、テンペラ、白亜地、キャンバス
91x72.8cm | 2020年

吉岡千尋もまた、庭に咲く薔薇やイコンの聖人が纏う衣装など、日常や旅先で目にした光景を主な主題としていますが、彼女は自らが知覚した事物の印象をなるべくそのままの姿と質感で画布の上に再現すべく、グリッドを抛り所に「写し描く」という姿勢に基づいて絵画を制作しています。その過程で浮かび上がる現実と認識のズレや記憶の空白などを、省略や補足といった控えめな筆の身振りに置き換え、あるいは周囲の陰影を写し込みながら曖昧な光を放つシルバーの下地に託すことで、果てしない空間の広がりや蓄積された時間と行為に宿る精神性といった知覚では捉えきれない要素をも画面につなぎとめ、光と闇が交差する絵画空間を生み出します。本展では、2014年より継続する、空に映える紅葉を描いた《muqarnas》シリーズの新作群、そして、礼拝堂の天井に表現された紺碧の星空をモチーフに、ストラップの技法で制作された作品を展示。描く行為と見る行為の間で密かに変質する絵画の位相について問いを投げかけます。

1981 京都府生まれ
2004 京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業
2006 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了

主な個展

2019 生きた建築ミュージアムフェスティバル 2019×まちと生きる現代アート(安井建築設計事務所、大阪)
2018 吉岡千尋 at ART OSAKA 2018 [アートコートギャラリー](ホテルグランヴィア大阪)
2017 mimesis(アーツスペース虹、京都) ['16, '14, '13, '10]
sub rosa(アートコートギャラリー、大阪)
2012 skannata(アートコートギャラリー、大阪)
2008 吉岡千尋展(O ギャラリーeyes、大阪) ['07]
2007 吉岡千尋展(O ギャラリーup,s、東京)

主なグループ展

2020 横田学 京都市立芸術大学退任記念展「つなぐ・つながる」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都)
2019 KYOTO OPEN STUDIO×10(ウズイチスタジオ、京都)
2018 15年(アートコートギャラリー、大阪)
2017 非在の庭 最終章(アーツスペース虹、京都)
FACE展 2017 損保ジャパン日本興亜美術賞展(東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、東京)
heART〜春和景明〜(インターコンチネンタルホテル大阪 20Fロビー)
2015 麝香の匂い | Smell of Musk(TALION GALLERY、東京)
琳派400年記念 新鋭選抜展 〜琳派の伝統から、RIMPAの創造へ〜(京都文化博物館)
2014 ACG eyes 6: 吉岡千尋、宮田雪乃、笠間弥路 ― 二次元地層学(アートコートギャラリー、大阪)
京都府美術工芸新鋭展 〜京都国際現代芸術祭2015への道〜(京都文化博物館) 〈京都新聞社賞〉
2013 2013 TSCA Rough Consensus 展(ホテルアンテルーム京都)
KYOTO STUDIO(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都)
2009 VOCA 展 2009 現代美術の展望―新しい平面の作家たち(上野の森美術館、東京)
2005 京展2005(京都市美術館)

レジデンス

2011-2012 境谷小レジデンス(京都市立境谷小学校)

主なコレクション・設置場所

パークハイアット京都／ザ・プリンスギャラリー東京紀尾井町／安井建築設計事務所 本社・大阪事務所／
京都第二赤十字病院／社会医療法人孝仁会北海道大野記念病院／京都銀行／京都市立芸術大学芸術資料館



《MIMESIS I - 2》

油彩、蜜蝋、金属粉、白亜地、キャンバス
162x130.3cm | 2016年

*参考作品

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

闇をまなざし、光にふれる。 児玉靖枝・西條茜・牡丹靖佳・吉岡千尋

Gazing into the Dark, Touching the Light Yasue Kodama, Akane Saijo, Yasuyoshi Botan, Chihiro Yoshioka

◆ 児玉靖枝 Yasue Kodama



[左]《ambient light - flower》
油彩、キャンバス|100x100 cm|2000年

[右]《asile - white splash 11》
油彩、キャンバス|130.3x130.3 cm|2020年
©yasue kodama/O gallery eyes
*参考作品

1980年代の精緻な静物画から90年代の抽象期、そして、90年代終盤以降の抽象と具象の境界を往還する絵画表現に至るまで、児玉靖枝は一貫して、ものが存在することの本質を探り、またその反照として「いま、ここにいる自分」、そして自らと対象を包む世界への眼差しをとらえようとしてきました。本展では、児玉が抽象的な絵画空間に外界のモチーフを再び取り入れ始めた2000年前後の《ambient light》シリーズ、そして、およそ20年の時を経て再び転換期を迎えた作家の現在進行形のシリーズ《asile - white splash》を取り上げます。前者は、絵具という物質による多層構造において、イメージ＝光が闇に溶けてはまた浮き出る、その明滅運動の最中に、不可知な存在の気配がもう一つの光となり、見る者の視線を奥へと誘う、児玉の代表的な絵画世界の萌芽ともいえる作品群です。そして、嵐のために根こそぎ倒れた梅の太木が満開の花を咲かせる光景を描く後者《asile - white splash》は、それまで絵具層の重なりの中に息づいていた光が前景へと溢れ出てくるかのような印象を抱かせます。それは、内に秘めた生の本質を惜しげもなく表出させる植物の有様に対峙し、その剥き出しの存在の姿、すなわち「もう一つの光」に絵画行為を通して触れようとする、作家の揺るぎない態度表明とも捉えることができるでしょう。

1961 兵庫県生まれ
1984 京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業
1986 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻修了

主な個展

2020 ギャラリー21yo-j、東京[12]
Oギャラリーeyes、大阪[18, '16, '13, '11, '09, '07, '05]
トアロード画廊、兵庫[19, '14, '12, '10, '08, '06, '02, '00, '98, '94, '86]
2018 MEM、東京[16, '14, '11]
アートスペース虹、京都[10, '09, '05, '89, '86]
2014 深韻－水の系譜(松原通りギャラリー・シルクロ、佐賀)
2008 ギャラリー21+葉、東京[94, '92]
2003 空・青(海岸通ギャラリーCASO、大阪)
2002 はないろ(セゾンアートプログラム・ギャラリー、東京)
2000 青、青(ギャラリーKURANUKI、大阪)
1997 東京画廊、東京
1996 石屋町ギャラリー、京都[93, '92, '90]
1995 スカイドア、東京
1994 アートサイト、福井

受賞

2010 亀高文子記念赤舂社賞
2005 兵庫県芸術奨励賞
1999 第17回京都府文化賞(奨励賞)
1993 '93 次代を担う作家展(準大賞)
1991 '91 次代を担う作家展(大賞)
1986 京都市立芸術大学作品展(大学院賞/華楊賞)

主なグループ展

2020 それぞれのながめ 河合美和・児玉靖枝・増田妃早子・渡辺智子(徳島県立近代美術館)
2019 みつめる－見ることの不思議と向き合う作家たち(群馬県立館林美術館)
2018 モネーそれからの100年(名古屋市美術館/横浜美術館)
2014 クインテット－五つ星の作家たち(損保ジャパン東郷青児美術館、東京)
2013 Playback Artist Talks(東京国立近代美術館)
2012 新インキュベーションIVゆらめきとけゆくー児玉靖枝×中西哲治(京都芸術センター)
2010 プライマリー・フィールドII:絵画の現在－七つの〈場〉との対話(神奈川県立近代美術館)
2009 LINK－しなやかな逸脱(兵庫県立美術館)
2007 DIALOGUES Painters' Views on the Museum Collection(滋賀県立近代美術館)
2005 椿会展(資生堂ギャラリー、東京)[04, '01]
2002 未来予想図－私の人生☆劇場(兵庫県立美術館)
2001 The very last(Gabriele Rivet、ケルン、ドイツ)
2000 京都府文化賞受賞記念展(京都文化博物館)
1999 現代日本絵画の展望展(東京ステーションギャラリー、東京)
1998 VOCA展 現代美術の展望－新しい平面の作家たち(上野の森美術館、東京)[97, '96, '94]
1996 水際－日本の現代美術展－小清水漸＋児玉靖枝(ヨコハマポートサイドギャラリー、神奈川)
1994 光と影：うつろいの詩学(広島市現代美術館)
1993 丸山直文・児玉靖枝二人展(ギャラリーKURANUKI、大阪)
1990 兵庫の美術家 '90(兵庫県立近代美術館)

パブリックコレクション

大分県立美術館/神奈川県立近代美術館/東京国立近代美術館/兵庫県立美術館/
和歌山県立近代美術館/鈴山市立美術館/京都府/資生堂アートハウス/東京オペラシティアートギャラリー